

3月13日(火)

水辺の霊的な生活

聖書朗読 詩篇 1編

その人は、水路のそばに植わった木のように。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。 詩篇 1:3

我が家にある観葉植物はすべていつも同じ運命をたどります。いつも私は、お店でできるだけ元気な鉢を選びます。そして家に持ちかえって、お水をあげ、念入りに肥料を与えます(最初の数週間は)。しかし、その後、何か他のことで忙しくなった私は観葉植物のことをすっかり忘れ、次第に葉は茶色くなり、そして枯れてしまいます。

詩篇では、私の枯れた植物たちと『水路のそばに植わった木』との明確な違いを語っています。水路のそばの木はすくすくと育ち、成長のあかしとして実をつけます。ここでわかる違いは栄養源です。観葉植物は常に人が世話をしなければなりません、水辺の植物は常に栄養源に接しているのです。

私たちの霊的な生活は、水辺にはおかれていない私の家の観葉植物のようなものかもしれません。ほんのたまにクリスチャンと接し、時々聖書を読み、まれに神様とつながります。しかし詩篇1編の人は違います。彼はおきてを通じての神の啓示に感動し、このおきてについて夜も昼も深く考えました。彼は霊的な成長に必要な栄養源に接してよく成長しました。霊的な健康と繁栄は彼のライフスタイルから派生した当然の副産物でした。みことばと神との関係を大切にしている人々に対して、神は豊かな祝福を約束されておられます。

讚美歌 321

祈り 親愛なる主。私の最大の願いはすべての命の源であるあなた様に近づくことです。

イエス様の御名によって。アーメン。

リンダ・パーカー 1985

3月14日(水)

神の計らいに委ねる

聖書朗読 詩篇 33:16~22

王は軍勢の多いことによっては救われない。勇者は力の強いことによっては救い出されない。・・・主の目は主を恐れる者に注がれる。その恵みを待ち望む者に。 詩篇 33:16,18

詩篇作者と預言者たちは、私たちのほとんどと同じように、周囲の状況で判断する人々に混じって暮らしていました。彼らの軍隊が強ければ自信を持ち、敵が自分たちより強ければ、彼らは恐れます。しかし、詩篇作者と預言者たちは言いました。「これらのことは重要ではない。重要なのは神との正しい関係です」。

アッシリアが急速に全世界を征服していたとき、預言者イザヤはエルサレムで暮らしていました。エルサレムの人々はおびえていました。イザヤは軍事力や強力な同盟国に信頼を置いてはいけないと王と国民たち両方に言いました。彼らはただの一国になることを恐れるべきではありませんでした。彼らは神の民となるべきでした。しかし彼らは耳を傾けず、列強各国といくつかの破壊的な条約を結んでしまいました。

のちに、アッシリア軍がエルサレムの城壁まで攻めこみ、降伏を要求したとき、イザヤは、もし神を信じるのなら、この町は救われるとヒゼキア王に言いました。このときヒゼキア王は神を信じました。そして神はアッシリア軍を伝染病で壊滅させました。エルサレムは守られました。神を信じることができるのなら、素晴らしい結果をもたらすことができるのです。

讚美歌 291

祈り 聖なるお父様。聖書とイエス様を通して、私たちに姿を現してくださっていることに感謝いたします。外の様子がどうであろうとも、全てはあなたの御手の中にあることを忘れないようお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

クレド・ウィンビッシュ 1974

3月15日 (木)

神のテイステイングルーム

聖書朗読 詩篇 37 : 25~34

こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。ヘブル 12 : 28

年を重ねると、乗り越えた課題や決断、そして人生の浮き沈み、美しい思い出とともに恐怖の瞬間などの思いにふけりながら、昔を振り返ることが多くなります。神がどのように私たちを導き、そして祝福してくださったかを思い出すとき、私たちはしたり顔でうなずくことができます。主にあって忍耐することで、神の祝福は増すのです。

私たちは、神はすべてのことを働かせて私たちの益としてくださることを知っています。ですから不正な、無駄な、自分勝手な、愚かな行いをせずに、主の道を心から信頼し、それに従いましょう。

神はいつも哀れみ深い御方です。困難な中にいるとき、神は神の慈しみと強さを常に私たちに分け与えてくださっておられます。神の子たちは、人生の試練を受け入れ、順応し、打ち勝つことでさらに強くなります。

神は正しく生きようと努力する私たちを見てお喜びなられます。いつの日か、あなたが去りし日々を思い返したとき、正しいものが見捨てられたり、その子孫が食べ物を乞うのを見たことがないことに気がつくでしょう。なんとという喜びでしょう！

讚美歌 452

祈り 親愛なるお父様。私を強めてください。そして、この世で正しく生きることの価値を見させてください。
イエス様の御名によって。アーメン。

メルヴィン・パナル 1979

3月16日 (金)

信頼は解決のカギ

聖書朗読 詩篇 20編

ある者はいくさ車を誇り、ある者は馬を誇る。しかし、私たちは私たちの神、主の御名を誇ろう。詩篇 20 : 7

テストレイク機長はTWA航空847便のコックピットに座って、ベイルートの戦争の傷跡が残る滑走路にめがけて飛行機を降下させていました。彼の背後には機長の頭にピストルを押し付けているテロリストがいました。もう一人のテロリストは手に手りゅう弾を握っていました。テストレイク機長は、一つのミスで彼の命が終わることを知っていました。しかし、その時機長は悟りました。生きるか死ぬか、彼の命は神の御手の中にあることを。

彼は後に言いました。「その時から、神の平安が私の体の中に流れ込みました。そして急に怖くなくなったのです。その後17日間にもわたったハイジャック事件の間、本当に一度も恐怖を感じなかったのです。」

テロリストたちは銃や手りゅう弾を持っていたのですが、だからといって、その場を手中に収めていたというわけではありませんでした。神の御手の中にあつたのです。

このハイジャック事件が起きるまでは、テストレイク機長は神を信じている限り、クリスチャンは決して失望はしないと「頭では」わかっていたそうです。しかし、ベイルートでの出来事で、機長はこのことを心から信じるようになりました。

武器や、お金、権力、その他の世俗的なものに信頼をおく者は、結局最後はひどく失望するのです。しかし、神に信頼をおく者は違います。永遠の勝利の中生きていくのです！

讚美歌 280

祈り 我が聖なるお父様。あなた様の方法で私たちを愛して下さりありがとうございます。私たちを見守って下さり、お守りくださることに感謝いたします。お父様、あなた様は信頼に値するものであることを私は知っています。もっとあなた様を信じることができますようお助けください。
我が救い主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。
アーメン。

ディビット ウィンビッシュ 1987

3月17日(土)

ああ、主よ。私を懲らさないでください

聖書朗読 詩篇 38編

しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛して下さったその大きな愛ゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。 エペソ 2:4, 5

この詩篇の中で、ダビデは自分の罪のために大いに苦しんでいます。これを読むと「私は、ほんとうにみじめな人間です」と言ったパウロを思い出します。しかし、ダビデはパウロがイエスにあって喜んだ素晴らしい赦しと義を知りませんでした。ダビデとパウロによって書かれた言葉を選ぶことで、彼らの祈りが私の祈りとなります。

「親愛なる主、私は善い行いをしたいと願うものです。でも私の罪ゆえに私の骨は健康ではありません。主よ、あなた様は私の願いを知っておられます。でも罪が私を惑わします。私の中に何一つ良いものがないことを私は知っています。この悪の重荷は私には重すぎます。私は腰を曲げ頭を垂れます。私は自己弁護するため唸り言葉なくため息をつきます。私はもう立っていることはできず、限界です。私はほんとうにみじめな人間です。主よ、私を見捨てないでください。主よ、我が救い主よ、今すぐ私を助けてください。この死の体から私を救い出してくださるのは誰ですか？ お父様、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してないことを知っています。感謝いたします。私は自分自身の義を建てようとはしません。神の義が私の義です。そして私はとても感謝しています。”

讃美歌 II 167

祈り お父様。私たちに赦しと目的を与えるための救いと決断を賛美いたします。あなた様の恵みを謙虚に受け止めます。
イエス様の御名によって。アーメン。

キャサリン・シルビー 1977

3月18日(日)

『はい』は『はい』

聖書朗読 詩篇 26編

あなたがたは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。 マタイ 5:37

「でもお母さん、お母さんは・・・については何も言わなかったでしょ(・・・にはあなたが親子の会話で聞いたことがある言葉を当てはめてください)。

母親が言った言葉はたった3文字の「い」「い」「え」です。母親には「いいえ」で十分なのです。

子どもとしては、それ以上の言葉が欲しいのです。「いいえ」のあとの「もし」とか、「いいえ」のあとの「でも」などです。私たちが「いいえ」だけをいう時、私たちはより誠実になります。「もし」や「そして」や「でも」を加えることなく「はい」で十分な時、私たちはより誠実になります。

アダムが罪を犯したとき、アダムは「私は罪を犯しました」とは言いませんでした。それはあまりにも正直すぎでアダムには言えず、アダムは「あなたがそばに置かれたこの女が」と言いました。これは「はい」「でも・・・」と言っているようなものです。ダビデが罪を犯したとき、ダビデは『私は主に対して罪を犯した。』と言い、主はダビデの罪を見過ごしてくださいました(サムエル記第二 12:13)。私たちも「はい」とだけ言いましょう！

不正直な罪人が自身を正当化する前に主はその罪人を赦します。このためダビデのような罪深い詩人も、神がお許しになられたので、今日の聖書朗読箇所である詩篇26編を歌うことができたのです。ダビデの歌に加わりましょう！

悪い行いの告白は

善い行いへの第一歩となる

——アウグスティヌス

讃美歌 461

祈り 神様。罪人である私を憐れんでください。
イエス様によって。アーメン

ディビッド・M・マローン 1977